

(平成 23 年度研究報告書)

## 21 分指一9一④ 若年乳癌患者のサバイバーシップ支援プログラムの構築に関する研究

大野 真司 (独立行政法人国立病院機構九州がんセンター 乳腺科)

### 研究の分類・属性

疫学・公衆衛生・がん対策

### 研究の概要

本研究の目的は若年乳癌患者が診断時、治療中、治療後に長期経過の中で直面する課題に応じたサバイバーシップ支援プログラムを包括的に構築することである。

近年、日本の乳癌は罹患率、死亡率とも増加し、罹患率は 1994 年に女性癌のトップとなり、その後も増加し続けている。また、日本人の乳癌の特徴として、欧米に比べ若年乳癌の比率が高い。一方、いわゆる若年乳癌患者は、通常のサバイバーシップ支援に加え、この時期の女性に特有な結婚・職場復帰・出産・育児などに対しサバイバーシップ支援が必要であることが報告されており、わが国においては特に若年乳癌患者のサバイバーシップ支援に重要な意味があると考えられる。しかし欧米においても若年乳癌の支援に関するエビデンスは少なく、日本におけるエビデンスは皆無に等しい。さらに若年乳癌患者が本当に必要としている情報や支援さえ明らかにされておらず、治療を受ける患者側にも医療側にも必要とされる情報提供が少なく、ともに困惑している状況にある。すなわち、わが国で最も必要とされる若年乳癌患者に対するサバイバーシップ支援プログラムを包括的に構築する事が、急務であると考えられる。

我々は、以前より乳癌領域で患者・医療者双方に情報が不足していると考えられる分野に対して患者アンケート調査などを基に、パンフレットの作成・配布という形で情報提供を行ってきた。また、患者・患者間及び患者・医療者間のネットワーク作りを目標とした NPO 法人を立ち上げ、また患者支援の会を立ち上げ (With you) 現在全国 6 箇所で開催し乳癌患者のサバイバーシップ支援に取り組んできた。

本研究では、1) アンケート調査や日本人若年乳癌の統計データから若年乳癌患者の実態・疫学、治療による長期影響、QOL、家族への影響などを調査し、若年乳癌患者のサバイバー支援に求められるものを明確にして、若年乳癌患者が求める支援の具体化を図り、パンフレットやインターネットを利用した情報供給システムや身体・心理・倫理・社会的側面への支援システムを構築する。2) 若年乳癌患者を対象としたネットワークの実態や課題を把握し、若年乳癌患者同士のネットワーク作りと若年乳癌患者と医療従事者のコミュニケーションをはかる。3) 若年乳癌患者長期フォローアップ (サーベイランス) に関するガイドライン作成を目指す。

### 平成 23 年度研究経費

8,928 千円

### 研究班の組織

大野 真司	九州がんセンター 乳腺科 部長	総括、若年乳癌サバイバーシップ支援ホームページ作成の 総合監修、パンフレットの総合監査。患者会や日本乳癌学 会との折衝ガイドライン作成の監修
-------	--------------------	--

高橋 かおる	静岡県立静岡がんセンター 乳腺外科 部長	若年乳癌患者の治療による影響の調査・解析、フォローアップシステムの構築
福内 敦	三井記念病院 乳腺内分泌外科 科長	薬物療法に関する臨床試験成績の解析などによる若年乳癌患者のQOL 調査と情報作成
大島 彰	九州がんセンター サイコオンコロジー科 医長	若年乳癌患者の心理社会的問題の解明と支援システムの構築
徳永 えり子	九州大学病院 学術研究員 (特任講師)	若年者乳癌の生物学的・社会的特性解明に関する研究
高橋 都	獨協医科大学 医学部公衆衛生学講座 准教授	若年乳がん患者のセクシュアリティおよびパートナーシップに関する研究
阿部 恭子	千葉県立保健医療大学 健康科学部看護学科 准教授	結婚・出産・育児など生活問題の解析、および治療の意志決定における支援システムの構築
大松 重宏	兵庫医科大学 社会福祉学 准教授	若年乳癌患者へのピアサポートのあり方
野澤 桂子	山野美容芸術短期大学 美容福祉学科 教授	身体の変化が若年乳がん患者のQOLに及ぼす影響とその支援に関する研究
塩田 恭子	聖路加国際病院 女性総合診療部 副医長	癌治療が卵巣機能に及ぼす影響の調査・解析と卵巣機能保持に関する支援プログラムの構築
加藤 友康	国立がん研究センター 婦人腫瘍科・病棟医長	乳がん治療と妊孕性保存に関する指針を検討する研究

## 研究の目的と到達目標及び実績要点

全期間

(目的と到達目標) :

本研究の目的は若年乳癌患者が診断時、治療中、治療後に長期経過の中で直面する課題に応じたサバイバーシップ支援プログラムを包括的に構築することである。

近年、日本の乳癌は罹患率、死亡率とも増加し、罹患率は1994年に女性癌のトップとなり、その後も増加し続けている。また、日本人の乳癌の特徴として、欧米に比べ若年乳癌の比率が高い。一方、いわゆる若年乳癌患者は、通常のサバイバーシップ支援に加え、この時期の女性に特有な結婚・職場復帰・出産・育児などに対しサバイバーシップ支援が必要であることが報告されており、わが国においては特に若年乳癌患者にサバイバーシップ支援プログラムに重要な意味があると考えられる。しかし欧米においても若年乳癌の支援に関するエビデンスは少なく、日本におけるエビデンスは皆無に等しい。さらに若年乳癌患者が本当に必要としている情報や支援さえ明らかにされておらず、治療を受ける

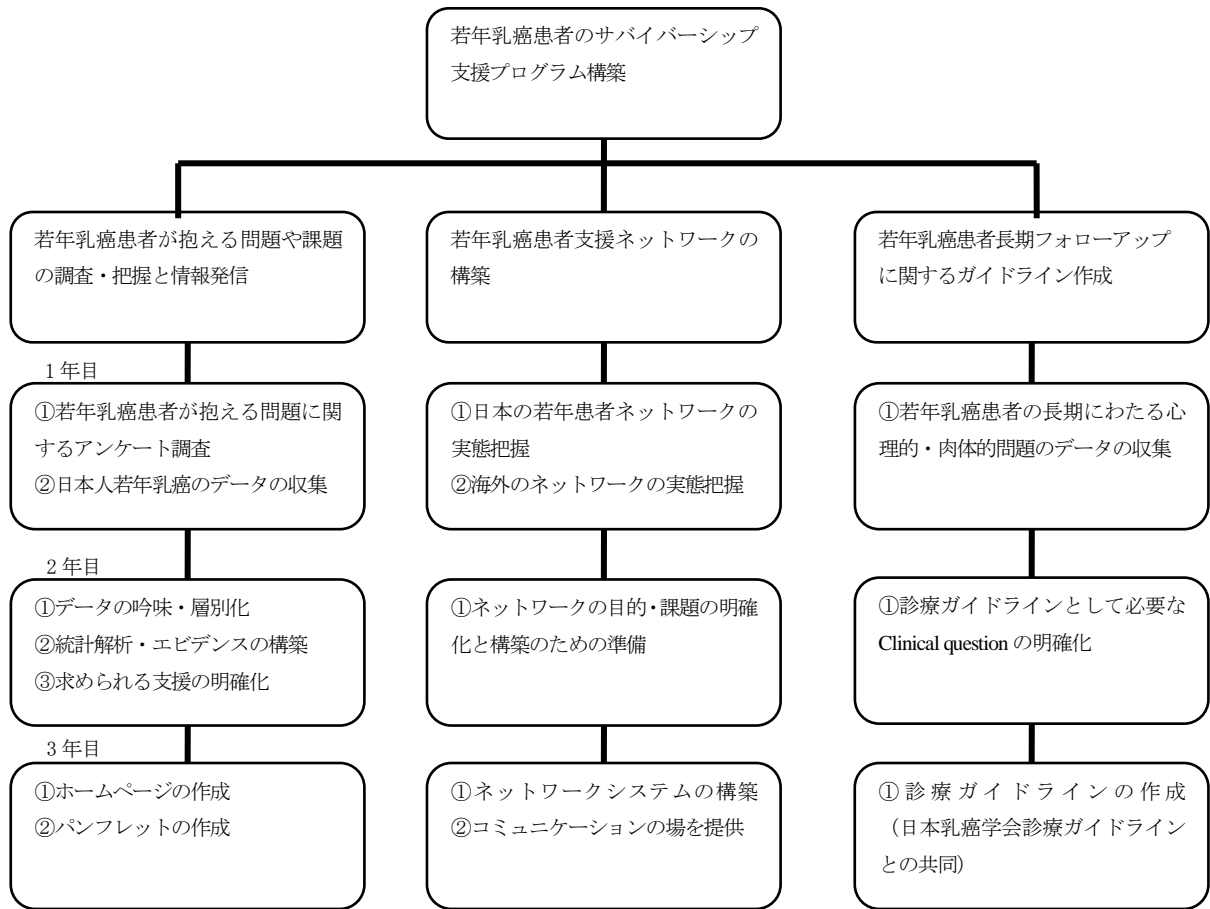
患者側にも医療側にも必要とされる情報提供が少なくとも困惑している状況にある。すなわち、わが国で最も必要とされる若年乳癌患者に対するサバイバーシップ支援プログラムを包括的に構築することが、急務であると考えられる。

我々は、以前より乳癌領域で患者・医療者双方に情報が不足していると考えられる分野に対して患者アンケート調査などを基に、パンフレットの作成・配布という形で情報提供を行ってきた。また、患者・患者間及び患者・医療者間のネットワーク作りを目標としたNPO法人を立ち上げ、また患者支援の会を立ち上げ現在全国6箇所で開催し乳癌患者のサバイバーシップ支援に取り組んできた。

本研究では、1) アンケート調査や日本人若年乳癌の統計データから若年乳癌患者の実態・疫学、治療による長期影響、QOL、家族への影響などを調査し、若年乳癌患者のサバイバー支援に求められるものを明確にして、若年乳癌患者が求める支援の具体化を図り、パンフレットやインターネットを利用した情報供給システムや身体・心理・倫理・社会的側面への支援システムを構築する。2) 若年乳癌患者を対象としたネットワークの実態や課題を把握し、若年乳癌患者同士のネットワーク作りと若年乳癌患者と医療従事者のコミュニケーションをはかる。3) 若年乳癌患者長期フォローアップ（サーベイランス）に関するガイドライン作成を目指す。

各年時の到達目標を下図に示す。

(流れ図)



### (第3年次評価時点の実績要点)

#### ① 若年乳癌患者の問題や課題の調査・把握と情報発信に関する研究

乳癌学会乳癌登録データベースからデータを抽出した日本人若年女性のデータの臨床病理学的解析を統計学的に行ない、日本人若年乳癌女性の特徴を明らかにした。研究成果は平成22年6月、第18回日本乳癌学会総会で報告した。

平成22年10月、医療者（医師・看護師）向けのアンケート調査を行った。アンケートの集積が終了し、現在解析を行なっている。

年齢別にみた月経回復状況を平成22年6月、第18回日本乳癌学会総会で報告した。

薬物療法と妊孕性に関するアンケート調査を平成23年10月、第19回日本乳癌学会総会で報告した。

年齢別にみた月経回復状況を平成23年10月、第19回日本乳癌学会総会で報告した。

術後の経過観察に関するアンケートを平成23年10月、第19回日本乳癌学会総会で報告した。

がんの親をもつ子どもへの学校での支援に関する調査を平成23年9月、第24回日本サイコオンコロジー学会総会で報告した。

乳がん患者の夫の体調変化と相談行動を平成23年9月、第24回日本サイコオンコロジー学会総会で報告した。

#### ② 支援ネットワークの構築に関する研究

日本の若年乳がん患者ネットワークの実態把握を行なった。

若年乳癌患者を対象としたホームページを平成22年12月に一般公開した<sup>別紙1) 2)</sup> (<http://www.jakunen.com/>)。

平成23年、1月乳癌患者支援の会である、あなたとブレストケアを考える会 (With you) を福岡で開催し、若年患者が集まってグループワークを行う場の提供を行った。

班員の大松を中心に、ピア・サポートのシステム構築を行なっている。

#### ③ 長期フォローアップに関するガイドラインの作成

班長の大野が、乳がん診療ガイドラインの副委員長となり、患者向けガイドラインのオンライン化を行なった<sup>別紙3)</sup> 4) (平成23年6月)。

### 第3年次中間報告まで

#### ① 年乳癌患者の問題や課題の調査・把握と情報発信に関する研究

アンケートの集積が終了し、現在解析を行なっている。

薬物療法と妊孕性に関するアンケート調査結果を平成23年10月、第19回日本乳癌学会総会で報告した。

年齢別にみた月経回復状況を平成23年10月、第19回日本乳癌学会総会でも再度報告した。

術後の経過観察に関するアンケート調査結果を平成23年10月、第19回日本乳癌学会総会で報告した。

#### ② 支援ネットワークの構築に関する研究

班員の大松を中心に、ピア・サポートのシステム構築を行なっている。

平成 23 年 1 月、乳癌患者支援の会である、あなたとブレストケアを考える会 (With you) を開催し、若年患者が集まってグループワークを行う場の提供を行った。

### ③ 長期フォローアップに関するガイドラインの作成

班長の大野が、乳がん診療ガイドラインの副委員長となり、患者向けガイドラインのオンライン化を行なった<sup>別紙<sup>3)</sup></sup>  
4)。

## 研究成果と考察

### ① 若年乳癌患者の問題や課題の調査・把握と情報発信に関する研究

包括的なアンケート調査を平成22年10月に行った。現在、その解析結果をホームページ、学会、学術誌で公表し始めている状況である。下記に現在までに公表した内容を記す。

平成 22 年

日本人若年乳癌患者のデータの臨床病理学的解析を第 18 回日本乳癌学会総会で報告した。

年齢別にみた月経回復状況を第 18 回日本乳癌学会総会で報告した。

平成 23 年

薬物療法と妊孕性に関するアンケート調査を第 19 回日本乳癌学会総会で報告した。

年齢別にみた月経回復状況を第 19 回日本乳癌学会総会で報告した。

術後の経過観察に関するアンケートを第 19 回日本乳癌学会総会で報告した。

がんの親をもつ子どもへの学校での支援に関する調査を第 24 回日本サイコオンコロジー学会総会で報告した。

乳がん患者の夫の体調変化と相談行動を第 24 回日本サイコオンコロジー学会総会で報告した。

若年乳がんに対し、心理面・美容面・社会的側面から包括的に行った初めてのアンケート調査であり、その意義は大きい。今後も継続して解析が終了した研究成果を公表する予定である。

### ② 支援ネットワークの構築に関する研究

若年乳癌患者に対する情報発信・患者サポートの目的で、若年乳癌に関するホームページを平成22年12月に一般公開した<sup>別紙<sup>1)</sup> 2)</sup>。現在・ホームページの維持と改定作業を行っている。

これまで、若年乳がんの特化した、ホームページは皆無であり、若年乳がん患者が信頼をおいて得ることが出来る情報源は非常に限られていた。今回、厚生労働省の研究班がホームページを立ち上げたことは、情報の量と信頼性において、若年乳癌患者が得た恩恵ははかりしれない。今後は、日本乳癌学会の患者さんのための乳がん診療ガイドラインともリンクさせ、いっそうの充実をはかりたい。

また、平成23年1月、平成24年1月に乳癌患者支援の会である、あなたとブレストケアを考える会 (With you) を開催し、若年患者が集まってグループワークを行う場の提供を行った。With youは、呼びかけに賛同した団体により、札幌・東京・大阪・沖縄でも開催された。今後、さらに全国的な展開が期待される。

さらに、班員の大松は若年乳癌患者に対するピアサポート (乳癌になった仲間によるサポート) を行っている。

若年乳がん患者こそピアサポートが肝要であると考えられ、九州がんセンターでも平成24年1月から福岡市の援助を受けて取り組みを開始した。

③ 長期フォローアップに関するガイドラインの作成

班長の<sup>3)</sup>大野が、乳がん診療ガイドラインの副委員長となり、患者向けガイドラインのオンライン化を行なった<sup>4)</sup> (2011年6月)。全体の副委員長、患者向けガイドラインの委員長として、改定作業を行い2012年6月発刊予定である。患者向けガイドラインにおいて、「若年者の乳がん」というセッションを新たに設け、3つの clinical question と解説文を加えた。また大野班のホームページを含め、体験者の声や患者サポートグループなどのサイトを紹介し適切な情報発信に取り組んでいる。本ガイドラインは無料で一般市民・患者も閲覧できるようオンライン化を進めている。今まで若年乳がんに対して公的機関が刊行した書籍はなく、その功績は大きい。若年患者さんにとって安心した情報を提供する事になることが予想される。

なお、平成22年度の評価会で以下のコメントを頂いたため、平成23年度の研究計画・方向に追加した。

④ 若年乳癌検診に関する指針を検討してもらいたい。

→厚生労働省が立ち上げた J-START (Japan Strategic Anti-Cancer Randomized Trial) は、40代女性の乳がん検診において、マンモグラフィ検査と超音波検査の併用が、有効かどうかを検証する比較試験であり、現在進行中である。班長の<sup>3)</sup>大野真司はこの班員である。この研究成果により、日本人若年乳癌検診に関する指針が作成され、平成24年度の日本乳癌学会編、乳癌診療ガイドライン (疫学・予防) に掲載される予定である。

⑤ 乳がん治療と妊孕性保存に関する指針を検討してもらいたい。

→班員の、加藤友康、塩田恭子を中心とし、乳がん治療と妊孕性保存に関する指針を検討し、ホームページへ掲載する予定である。

## 倫理面への配慮

- 1) 若年乳癌患者へ治療時期別に必要な情報や支援の聞き取り調査を行なう際、研究の協力を得る患者及び患者会に対し、文書を用いて研究の趣旨を説明し、以下の情報を提供し、理解と同意を得た上で同意書へ署名をもらう。
  - ① 研究協力についての判断は自由意志に基づくものであり、同意はいつでも撤回できる。
  - ② 研究に参加することあるいは参加しないことで、診療上の不利益を受けないこと。
  - ③ プライバシーが守られ、個人情報がもれないよう匿名化して行なうこと。
  - ④ 得られたデータは研究以外に使用しないこと。
- 2) 聞き取り調査を行なう際は、臨床試験として実施し、実験計画書を作成した上で各参加施設の倫理委員会の審査を受ける。各研究で得られた基本データと解析結果は研究班において厳重に管理する。

## 本研究に関連する、本研究期間中の主な発表論文等

(雑誌論文)

<英語>

1. Wada, K., Ohtsu, M., Aizawa, Y., Tanaka, H., Tagaya, N., Takahashi, M. Awareness and behavior of oncologists and support measures in medical institutions related to ongoing employment of cancer patients in Japan. Jpn J Clin 42(4):295-301, 2012
2. Masuda, N., Sagara, Y., Kinoshita, T., Iwata, H., Nakamura, S., Yanagita, Y., Nishimura, R., Iwase, H., Kamigaki, S., Takei, H., Noguchi, S. Neoadjuvant anastrozole versus tamoxifen in patients receiving goserelin for premenopausal breast cancer (STAGE): a double-blind, randomized phase 3 trial. Lancet Oncology 2011 13(4): 345-352, 2012
3. Ohno, S., Tanaka, K., Koga, C., Nishimura, S., Yamaguchi, H., Kawaguchi, H., Yoshiyama, T., Nakamura, Y: Can patients with metastatic breast cancer be cured after introduction of newer and more effective agents? Breast Cancer (epub ahead of print) 2011
4. Takahashi, M., Inokuchi, T., Watanabe, C., Sauto, T., Kai, I: The Female Sexual Function Index (FSFI): Development of a Japanese Version. Journal of Sexual Medicine 8:2246-2254, 2011
5. Ledesma, D., Takahashi, M., Kai, I: Interest in a group psychotherapy program among Philippine breast cancer patients and its correlative factors. Psycho-Oncology 20: 1007-1012, 2011
6. Takahashi, M., Inokuchi, T., Watanabe, C., Sauto, T., Kai, I. The Female Sexual Function Index (FSFI): Development of a Japanese Version. Journal of Sexual Medicine 8: 2246-2254, 2011

<日本語>

1. 高橋都, 和田耕治, 森 晃爾, 武藤孝司, がん患者の就労に向けた支援 — 治療担当スタッフに期待すること 緩和ケア(印刷中)
2. 大松尚子, 大松重宏, 小郷祐子ほか、患者会における若年乳がん患者のピア・サポートのあり方、医療と福祉、91 (145-2)、41-46、2012
3. 川口英俊, 大野真司, 治験地域連携ネットワークの構築、乳癌の臨床、26、315-319、2011
4. 大野真司, 第12回ザンクトガレン国際乳癌カンファレンスレポート、乳癌の臨床、26、401-412、2011
5. 大野真司, 西村純子、乳がん、臨床と研究、88、990-994、2011
6. 吉山知幸, 大野真司, 乳癌、臨床外科、66、1016-1020、2011
7. 荻谷朗子, 高橋かおる, 徳永えり子, 福内敦, 増田慎三, 大野真司, 若年性乳癌術後の乳房定期検査の実態—多施設アンケート結果より、(乳癌の臨床、投稿中)
8. 高橋都, わが国で活用できる女性性機能尺度の紹介—Sexual Function Questionnaire 日本語 34項目版と Female Sexual Function Index 日本語版— 日本性科学会雑誌、29、21-35、2011
9. 阿部恭子, 谷田貝麻美子, 佐藤真理子, 川端博子, 術後乳がん患者の衣生活における困難と対処、千葉県立保健医療大学紀要、第2巻1号、57-62、2011
10. 阿部恭子, がん看護相談外来の「今」と「これから」、外来看護、第16巻6号、73-76、2011
11. 大松重宏, 大松尚子他、「若年乳がん患者のピアサポートのあり方」、『医療と福祉』、掲載予定、2011
12. 高橋都, がんサバイバーの性機能障害と性腺機能障害への支援、腫瘍内科 5、139-144、2010
13. 高橋都, 乳癌治療後のセクシュアリティ、医師・看護師に期待される支援、CancerBoard 乳癌、3(1)、87-90、2010
14. 高橋都, がん治療後の「幸せな性」、現代のエスプリ 517号 (2010年8月号)、がん患者のこころ、2010
15. 阿部恭子, 黒田久美子, 馬場由美子, 乳房切除術を受けた乳がん患者のニードに応じる乳房補整のケア、千葉大学看護学部紀要、32、23-30、2010
16. 阿部恭子, 乳がんとセクシュアリティ、日本性化学会雑誌、28 (1)、69-71、2010
17. 野澤桂子, 和泉秀子, 外見変化のケア、看護技術、56、11、30-33、メヂカルフレンド社、2010
18. 野澤桂子, がんの治療に伴う外見の変化と心理的苦痛の性差、日本心理学会第74回大会論文集、382、2010
19. 片岡明美, 大野真司, 30歳以下の若年性乳癌の臨床病理学的解析と結婚・出産に関する検討、乳癌の臨床 24、39-42、2009
20. 阿部恭子, 谷田貝麻美子, 若林慎子, 佐藤真理子, 川端博子, 退院時における乳がん患者の乳房の補整に関する情報の情報源と入手状況、第40回日本看護学会論文集 (成人看護I)、56-58、2009
21. 小川昌美, 増田慎三, 山村順, 増田紘子, 若年者乳癌における化学療法中の卵巣機能保持の工夫、乳癌の臨床、24(1)、43-48、2009

22. 塩田恭子、卵巣腫瘍、妊孕性を温存する婦人科治療-温存を求められた場合の情報提供、寺尾俊彦（編）、日本産婦人科医会東京、2009

(学会発表)

<国外>

1. Miyashita, M., Ohno, S., Kataoka, A., Murakami, S., Ozaki, S., Kawaguchi, H., Nishimura, J., Yamaguchi, M., Takahashi, M.: Unmet information needs and quality of life in young breast cancer survivors in Japan. Oncology Nursing Forum 2011, (Boston), 2011
2. Takahashi, M.: Sexuality & intimacy after breast cancer in Japanese cultural and clinical context, World Congress for Sexual Health, (Glasgow), 2011
3. Kinoshita, T., Masuda, N., Sagara, Y., Iwata, H., Nakamura, S., Yanagita, Y., Nishimura, R., Iwase, H., Kamigaki, S., Takei, H., Tsuda, H., Noguchi, S. Neoadjuvant anastrozole or tamoxifen for premenopausal breast cancer: Ki67 expression data from the STAGE study. ASCO, Abstract No:501<sup>^</sup>, 2011. J Clin Oncol 29, 2011
4. Takahashi, M. Impact of the earthquake in Japan on cancer survivors and the healthcare system. 13<sup>th</sup> World Congress of Psycho-Oncology, Antalya, 2011
5. Miyashita, M., Ohno, S., Kataoka, A., Murakami, S., Ozaki, S., Kawaguchi, H., Nishimura, J., Yamaguchi, M., Takahashi, M. Unmet information needs and quality of life in young breast cancer survivors in Japan. Oncology Nursing Forum 2011, Boston, 2011
6. Takahashi, M. Sexuality & intimacy after breast cancer in Japanese cultural and clinical context, World Congress for Sexual Health, Glasgow, 2011

<国内>

1. 野澤桂子、若年乳癌患者における外見変化への対処行動の実態、第26回日本がん看護学会学術集会、口演、2012
2. 高橋都、Work-related issues in cancer survivors and families、第10回日本臨床腫瘍学会学術州会、2012
3. 荻谷朗子、高橋かおる、徳永えり子、福内敦、増田慎三、大野真司、若年性乳癌術後の乳房定期検査の実態—多施設アンケート結果より。、第19回日本乳癌学会総会、仙台、2011
4. 小林真理子、神前裕子、高橋都、がんの親をもつ子どもへの学校での支援に関する調査<第二報>— 一般教員へのアンケート調査分析— 日本サイコオンコロジー学会、大宮、2011
5. 高橋都、武藤孝司、多賀谷信美、円谷美也子、吉野美紀子、甲斐一郎、乳がん患者の夫の体調変化と相談行動— 乳がんカップル調査<第1報>— 日本サイコオンコロジー学会、大宮、2011
6. 黒田久美子、金澤麻衣子、森田公美子、阿部恭子、乳房再建術を経験した女性の治療選択に関わる体験、腹部自家組織再建の1事例の報告、日本がん看護学会誌、25巻 Suppl、337、2011
7. 金澤麻衣子、黒田久美子、阿部恭子、森田公美子、乳房再建術を経験した女性の治療選択に関わる体験、人工乳房再建術の1事例の報告、日本がん看護学会誌、25巻 Suppl、98、2011
8. 阿部恭子、金澤麻衣子、乳がん看護認定看護師による若年性乳がん患者への支援の内容と支援における困難、日本がん看護学会誌、25巻 Suppl、210、2011
9. 阿部恭子、金澤麻衣子、大野朋加、西弘美、若年性乳がん患者の心理社会的困難に対する支援の検討、第19回日本乳癌学会学術総会抄録集、272、2011
10. 阿部恭子、金澤麻衣子、大野朋加、西弘美、大野真司、若年性乳がん患者の診断・治療選択時のインターネット活用における体験、第7回日本乳がん看護研究会抄録集、24、2011
11. 大松重宏、大橋英理他、「若年乳がん患者の心理社会的課題とその支援」、第59回日本医療社会事業全国大会、2011

(書籍)

<英語>

1. Takahashi, M. Health Promotion for Cancer Survivors: New Paradigm beyond Prevention and Treatment. In Asian Perspectives and Evidence on Health Promotion and Education. Eds by Muto, T., Nakahara, T., Eun WN, Springer : 78-86, 2011



<日本語>

1. 大野真司、患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2009年版
2. 高橋都、性機能障害、新臨床腫瘍学第二版（日本臨床腫瘍学会編）、859-862、南江堂、2009
3. 阿部恭子、患者さんの意思決定の支援を行う際の看護のポイントは何ですか?、ガイドラインに基づく乳がんケアQ&A チーム医療のために、中村清吾、金井久子（編）、総合医学社、30-31、東京、2009
4. 野澤桂子、美容による心理的・身体的効果、改訂美容福祉概論、山野美容芸術短期大学（編）、中央法規出版、東京、2009

(知的財産権)

特になし

(政策提言（寄与した指針等）)

1. 第27回がん対策推進協議会 参考人発表（がん患者・家族の就労支援）

# 若年乳がんに関するホームページ（トップ）

厚生労働省 若年乳がん患者のサバイバーシップ支援プログラム

## 若年乳がん 拓かれた若年乳がん診療を目指して

ホーム リンク お問い合わせ

若年乳がんの特徴について 卵巣機能 対人関係 社会復帰 美容に関する問題 体験談 妊娠と出産



あなたは、  
もう一人ではありません。  
私たちは若年乳がん患者様が  
笑顔をとれどもどせるよう、  
堅強なチーム医療構想を考えています

お知らせ

2011年2月1日  
若年乳がん ホームページを開設いたしました。

国内の支援団体の紹介  
海外の支援団体の紹介  
若年乳がんに関するQ&A  
若年乳がんに関するパンフレットの紹介  
日本のガイドラインの紹介  
若年乳がんに関する論文の紹介

若年乳がんの特徴について

- 日本人若年性乳がんの特徴と予後
- 乳がん術後の乳房定期チェックについて
- 対側乳がんの発生
- 温存乳房再発

卵巣機能

- 化学療法後の無月経
- 化学療法に伴う卵巣機能障害とその保持の工夫
- 術後の妊娠・出産
- 早期閉経による更年期障害・骨粗しょう症
- 卵子凍結・受精卵凍結・卵巣凍結
- 卵巣保護

対人関係

- 性生活
- 夫・パートナーとの関係
- 若年乳がん患者の家族（夫・子供）の精神的問題とそのケア
- シングルのお母さんへ
- 上司や同僚との付き合い方の5ポイント

社会復帰

- 医療保障
- 雇用に関する問題
- ピアサポート

美容に関する問題

- 外見の問題とこころ
- 脱毛
- 皮膚と爪
- 下着

体験談

妊娠と出産

クリック

○サイト開設責任者  
独立行政法人 国立病院機構 九州がんセンター 乳腺科  
部長 大野 真司

〒811-1395 福岡市南区野多目3丁目1-1 TEL: 092-541-3231 FAX: 092-542-8503

## 前頁よりジャンプ

厚生労働省 若年乳がん患者のサバイバーシップ支援プログラム

# 若年乳がん

拓かれた若年乳がん診療を目指して [ホーム](#) [リンク](#) [お問い合わせ](#)

[若年乳がんの特徴について](#) [卵巣機能](#) [対人関係](#) [社会復帰](#) [美容に関する問題](#) [体験談](#) [妊娠と出産](#)

**対人関係**

- 性生活
- 夫・パートナーとの関係
- 若年乳がん患者及び家族(夫・子供)の精神的問題とそのケア
- シングルのあなたへ
- 子育て
- 上司や同僚との付き合い方の5ポイント

### 若年乳がん患者及び家族(夫・子供)の精神的問題とそのケア

- (1) [乳がん患者の精神的負担と心理的影響](#)
- (2) [乳がん体験者の悩みや負担](#)
- (3) [気持ちのつらさが与える影響](#)
- (4) [乳がん術後患者・家族の精神症状](#)
- (5) [若年乳がん患者における精神的影響](#)
- (6) [不安の対処について](#)
- (7) [子供へ病気を説明する際](#)

#### (1) 乳がん患者の精神的負担と心理的影響

病名開示の心理的衝撃    手術の不安、ストレス

放射線、化学療法、ホルモン療法不安

社会、日常生活への再適応

再発・転移、病状悪化の不安、死への恐怖

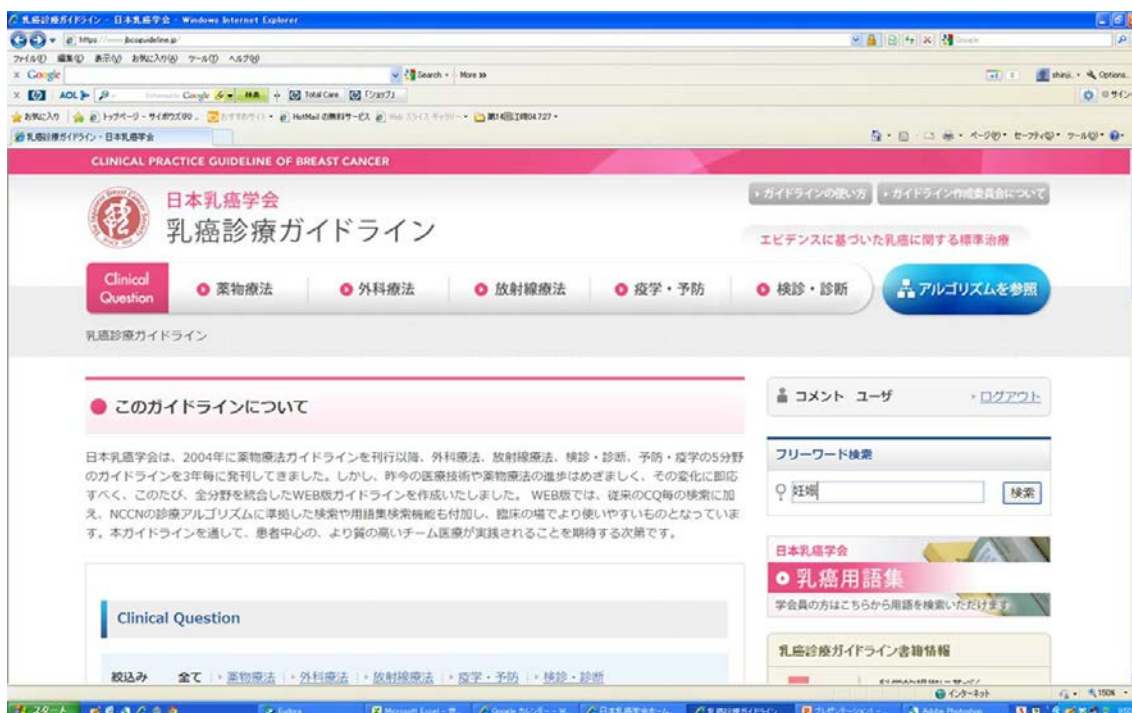
家庭、仕事、経済的問題

女性性、母性、セクシュアリティ、ボディイメージへの心理的影響

通常    **【気持ちのつらさ(抑うつや不安など)の重症度】**    重症

悲しみ 心配 恐れ    適応障害    うつ病 不安障害

別紙3)



別紙4)

## ● "妊娠" に関連するCQ一覧

10件のCQが該当しています。

絞り込み [全て](#) | [薬物療法](#) | [外科療法](#) | [放射線療法](#) | [疫学・予防](#) | [検診・診断](#)

並び替え [CQID順](#) | [重要度順](#) | [最新順](#)

▶ [総論：乳癌薬物治療の基本原則](#)

[薬物療法](#)

▶ [閉経前または閉経期乳癌に対してアロマトーゼ阻害薬の単剤使用は勧められるか](#)

[薬物療法](#) 推奨グレード：C2, D

▶ [妊娠期乳癌に対して化学療法は勧められるか](#)

[薬物療法](#) 推奨グレード：C1, D

▶ [妊孕性維持のために化学療法中にLH-RHアゴニストを使用することは勧められるか](#)

[薬物療法](#) 推奨グレード：C2